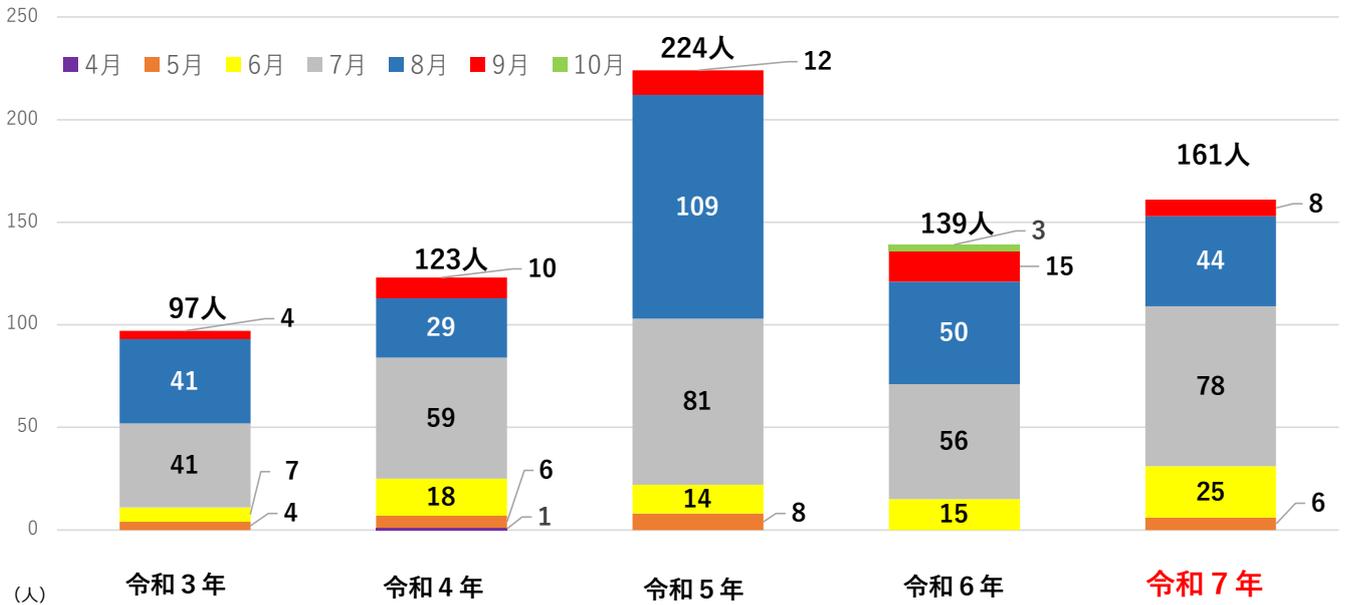


# 令和7年中(4月1日~9月30日) 大崎管内における熱中症搬送状況について

過去5年 熱中症による救急搬送状況

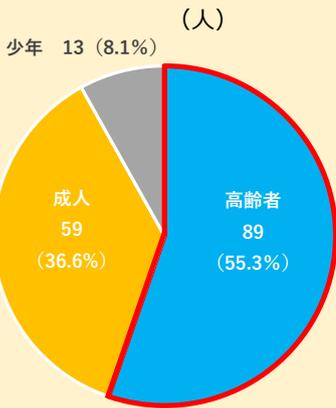


6月中の搬送者数が過去最多となり、7月末時点では過去最多ペースで推移していました。8・9月中の搬送者数は令和5・6年と比較し減少したことで、9月末時点で過去2番目に多い搬送人員となりました。

連日真夏日が続いたにもかかわらず8・9月の搬送者数が減少したことについて、梅雨明けが例年に比べ早かったことで暑熱順化が進んだことや、報道機関等による積極的な注意喚起により住民の意識の高揚が図られたと考えられます。

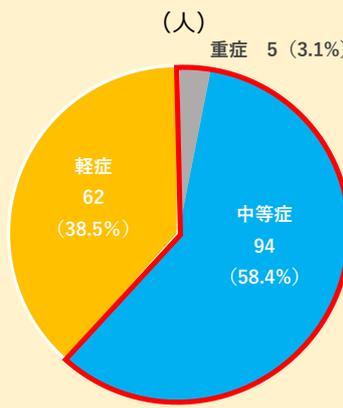
## 熱中症で救急搬送された161人の内訳

年齢区分別 (構成比)



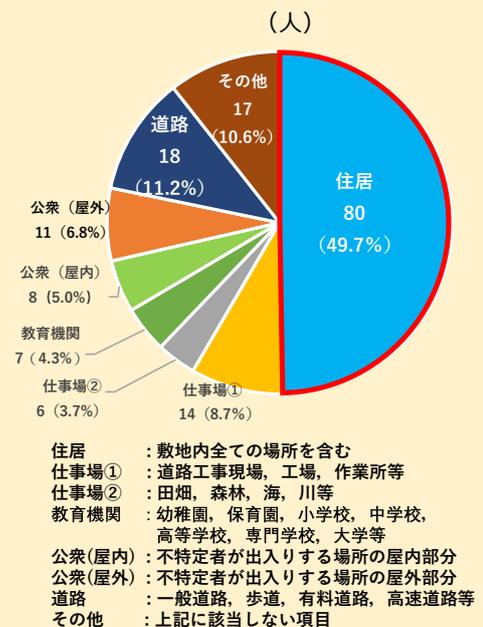
乳幼児：生後28日以上満7歳未満  
少年：満7歳以上満18歳未満  
成人：満18歳以上満65歳未満  
高年齢者：満65歳以上

初診時における傷病程度別 (構成比)



軽症：入院加療を要しない程度 (外来診療)  
中等症：重症又は軽症以外の程度 (入院加療)  
重症：3週間以上の入院加療を必要とする程度  
死亡：初診時において死亡が確認されたもの

発生場所別 (構成比)



住居：敷地内全ての場所を含む  
仕事場①：道路工事現場、工場、作業所等  
仕事場②：田畑、森林、海、川等  
教育機関：幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等  
公衆(屋内)：不特定者が出入りする場所の屋内部分  
公衆(屋外)：不特定者が出入りする場所の屋外部分  
道路：一般道路、歩道、有料道路、高速道路等  
その他：上記に該当しない項目

- ・年齢区分別では高年齢者が半数を超え、傷病程度別では入院加療が必要な中等症以上の方が3分の2を占めています。
- ・発生場所別では、住居(敷地内すべての場所を含む)が約半数を占めています。
- ・特に高年齢者の熱中症対策としてエアコンを上手に使うこと、こまめな水分補給また家族や介護の方など周囲の人が見守りや声かけをすることが大切です。